

韓国社会福祉学会 2023 年度韓国社会福祉共同学術大会 研究発表報告

東京福祉大学大学院
佐々木 隆志

日本のデイサービスにおける「おりがみ」活用と生きがい創出の研究

本研究に、貴重な発表の機会を提供して下さい、日本社会福祉学会理事の先生方及び韓国社会福祉学会大会運営に関わった多くの諸先生方に深く感謝申し上げます。

2023年10月20日韓国済州国際コンベンションセンターでの報告は、私共の長い研究生活の中で最高の思い出となり、ありがとうございました。

【発表の動機】

第一に、筆者が進めている認知症の方々を対象にした「おりがみりハビリ」研究を世界に発信したい点。第二に、身近な素材（おりがみ）で、高齢者の生活の質を高め介護予防に寄与したい点である。

【研究概要】

本研究は、デイサービスを利用している認知症高齢者について、二つの群に分け「おりがみを活用した群」（N=129）と「おりがみを活用しない群」（N=108）で、おりがみ活用前とおりがみ実施後の身体に関する11項目についてアンケート調査を実施した。調査は、日本全国にデイサービスを持つ会社と、おりがみ会社及び静岡県立大学短期大学部佐々木研究室の三者が産学連携協定書の締結によって実施した。

【考察】

おりがみを実施群と未実施群に分け、おりがみ実施前後の質問項目に対して、対応のあるt検定を行った。11項目の質問のうち、おりがみ実施群における「他人と話をする機会があるか」のみ統計的に5%水準で有意な結果を得た。また、この質問項目は正の方向に有意であった。おりがみ実施群において、おりがみを行う前よりも後の方が「他人と話をする機会」が多くなった。おりがみ未実施の群においても、おりがみ以外のデイサービスの活動をしており、おりがみを実施群のみで統計的に有意な結果を得られたことは大きな発見である。

【質疑応答】

南ソウル大学教授から、事前に質問がメールで届いた。1. おりがみに参加者した人数に関する質問。2. アンケートツールに関する質問。3. 独立変数に関する質問（おりがみ利用期間と頻度、レベルに関する詳細など）。4. 測定方式に関する質問などである。質疑のなかで、調査中はデイサービスに通所から入院された方、デイサービスを利用しなくなった方や認知症以外の疾病を抱えていた様々な高齢者がいた。質問内容から、調査場面及びおりがみの取り組み過程、難易度、調査期間など更に詳細に述べる必要があったと反省している。南ソウル大学チャン・ドンホ教授は、筆者が述べた「今後、高齢者のあるままの存在を認め、残存機能を活用する取り組みプログラムが必要となります」という意見に全面的に同意した。さらに「今後、折り紙のように比較的低コストで、同時に効果的なプログラムがもっと開発されることを願っています」と述べられた。

本研究は“Study of End-stage Care Management in Japan”中央法規出版、科研費補助金【特定学術図書】（課題番号：255161）PPI-237（2014）」成果の一部である。